

## 総目次

はじめに	1
第I部 明治二〇（一八八七）年一月〜明治二三（一八九〇）年一月	17
第II部 明治二三（一八九〇）年二月〜明治三九（一九〇六）年五月	197
第III部 明治四〇（一九〇七）年一月〜昭和九（一九三四）年二月	417
解題	
第I部 解題	825
第II部 解題	841
第III部 中国関係時事論説解題	870
第III部 中国関係時事論説以外の文章解題	894
あとがき	907

## 凡例

一、底本には、原則として文章が掲載された初出の新聞・雑誌等を用いた。

一、文章は発表紙誌名ごとにとまとめ、発表年月日に沿って配列した。新聞掲載文章については発表年月日のあとに表題・文章を続けた。また、雑誌掲載文章の表記は、発表雑誌名・号数・掲載欄名に続けて発表年月日を示し、ついで表題・署名以下本文を掲載した。発表雑誌が同一の文章については、「掲載欄」が同じ文章は掲載欄を省略して表題・本文を続け、「掲載欄」が異なる場合は「掲載欄」名を示して文章を続けた。なお、号数表記等は以下の通りである。

- 1、号数は、単位語を省くとともに新字で表記した。
  - 2、連載の文章については、底本の番号は（ ）内に示したが、番号が付されていない文章や、底本の番号に不備があると考えられる場合は「※」を付した。
  - 3、補注は「※」を付して注記した。
- 一、旧字体を中心とする原文の体裁を生かすことを旨として翻刻したが、読解の便のため、次の諸点については整理を行った。
- 1、底本の傍点・圏点・傍線などは、原則として省略した。
  - 2、字体は原則として旧字体を用い、俗字は正字にあらためたが、新字体を残したものもある。

- 3、仮名遣いについては、「ゐ」(モ)、「ゑ」(エ)を除いて変体仮名(江↓え)・合字(カ↓より)等は通行の表記にあらため、また濁点や送り仮名等を適宜施した。ただし、古典等の引用文に関しては、原文を生かした。

- 4、底本の巳・己の混用、明らかな誤字・脱字と思われるものは訂正した。また、文意の通じにくい箇所には「ママ」や「」で傍注を施した。

- 5、底本に句読点のあるものは、原則としてそれに従ったが、句読点を付していないものや不適切と考えられるものについては、適宜、編者が句読点、中黒等を施した。

- 6、振り仮名は、新仮名遣いに統一し、底本に付してあるものは編者が取捨し、ない場合も必要と思われるものに適宜付した。

- 7、文章先頭文字の位置については原則として底本通りであるが、改行については適宜編者が施した。

- 8、底本の破損等で判読不能の文字は□で示し、□や□□□で字数分を示した。

- 一、収録文章中、一部差別的な表現が見られるが、いずれも歴史的资料として原文のまま掲載した。

## 第I部 目次

### 『明教新誌』

佛敎家は宜く耶穌の恩を拜謝すべし……………	19
宗敎家と敎育學(一)……………	22
宗敎家と敎育學(二)……………	23
『萬報一覽』	
府縣會の紛紜……………	25
暹羅 <sup>シヤム</sup> 公使の來朝……………	27
米國大統領の敎書……………	28
歐洲の形勢……………	29
徵兵令改正の風説……………	30
大隈伯……………	31
南洋政略……………	32
露澳の關係……………	33
地方制度市制……………	33
探偵費……………	34
歐洲の危機……………	35
獨逸老皇帝の崩御……………	35
獨逸新皇帝……………	36

### 『大同新報』

歲計豫算……………	36
第二のノルマントン内國船に生ぜり……………	38
在野政論家……………	38
獨逸……………	38
改進黨の總集會……………	39
佛國內閣……………	39
風説人心を驚かす……………	40
有志者……………	40
議員の數は三百人なり……………	40
外交上に關して宗敎の異同に杞憂をなすは眞に杞憂のみ……………	41
東北の大會……………	42
勸業の親玉の西國巡禮……………	43
拳隕 <sup>けんいん</sup> て雨の如し……………	43
賄賂事件の調査……………	44
吾れ誰れにか適從せん……………	44
餅は餅屋……………	45
國家の將さに興らんとする必ず禎祥あり……………	45
再び信敎の自由に就て……………	52
不測の禍害……………	55
青年の學佛者に物申す……………	59
殷の鑑遠からず……………	62

新著百種第三號	64
僧侶の被選權	67
〔無題〕	68
僧侶と被選權	69
新著百種第三號(承前)	72
條約改正議	75
爲之奈何	78
狗頭羊肉	82
再び條約改正を論ず	84
憲法の解釋法	87
閑居箴 芭蕉翁	90
一言而喪邦	90
大臣の責任	92
尊皇奉佛者が條約改正に關する意見	94
至誠而不レ動者未 <sub>レ</sub> 之有也	96
白河樂翁公が理想の佳人	99
國を亡すも惟此時、國を興すも惟此時	100
不怒則笑之矣	104
立皇太子式の大典に際し尊皇奉佛論の哲理を述べて	107
寶祚の無窮を頌し奉る	107
新内閣	111
正義の光漸く明かならんとす 附耶蘇教徒の尊皇	114

風俗壞亂	117
文學上佛教の功績	121
内閣諸公に望む	124
クリスマスに就て	126
文學上佛教の功績(承前)	128
新年の辭	132
反動の大勢	133
僧侶の被選權	138
反動の大勢(承前)	140
法律的變遷	141
法律的變遷(承前)	144
法律的變遷(承前)	147
日本文學と宗教と	149
政治界に於ける僧侶の運動	152
ユニテリアン教徒に告ぐ	154
法律的變遷(承前)	159
日本文學と宗教と(接第二十四號)	161
貧民を救へ	163
佛教の前途 附僧籍論	164
法律的變遷(承前)	169
五月の美	170
再び候補を論ず	170

各宗管長會議	175
反動の大勢	179
『日本弘道會叢記』	
弘道の一段	182
『江湖新聞』	
別天樓子に與ふ	185
『三河新聞』	
三河國勢の消長(上)	185
三河國勢の消長(中)	186
三河國勢の消長(下)	187
議會外の勢力	187
議會外の勢力(承前)	188
議會外の勢力(承前)	189
議會外の勢力(承前)	189
議會外の勢力(承前)	190
人物	191
人物(承前)	192
人物(承前)	193
人物(承前)	193
人物(承前)	194
祝帝國議會開院式	195

## 第II部 目次

### 『日本人』

田舎もの……………	199
又田舎もの……………	199
大政治家の経綸あるか……………	199
歳晩に際し天を仰で絶叫す……………	204
新年に際し日本人の地位を論ず……………	210
立憲改進黨に過を貳せざらんことを望む……………	216
衆議院の豪傑奚ぞ軍人の心を收攬せざる……………	220
見るがまゝ……………	225
沈酔時期來らんとす……………	227
讀書餘録……………	230
『亞細亞』	
日本海難救助法(べ、マイエット氏著)……………	232
星海第壹卷(經濟雜誌社發行)……………	232
校訂神皇正統記(飯田・久米兩氏校訂)……………	233
東邦協會報告第一……………	233
舊事諮問録第壹編……………	233
出版月評第三十八號……………	233

衆議院議員ならぬ政黨員……………	234
革新の氣運……………	238
試みに取て代るの術を講ぜんか……………	241
支那現勢論……………	243
條約改正之標準……………	244
閑谷疊史……………	244
榎本子の殖民政策……………	244
經國策……………	249
油地獄……………	249
誰れか現代に革命の機なしと謂ふ乎……………	250
僻論派の史家……………	257
平山行藏氏が幕府に上る書……………	261
漢城之殘夢……………	263
大坂文藝……………	264
印度佛陀伽耶靈塔圖記……………	264
摸古美術木版繪三幅……………	264
新佛敎論……………	264
心の露……………	266
三經宗體……………	267
災害救濟論……………	267
又別天樓に與ふ……………	267
井筒女之助……………	268
衆議院議員ならぬ政黨員……………	234
革新の氣運……………	238
試みに取て代るの術を講ぜんか……………	241
支那現勢論……………	243
條約改正之標準……………	244
閑谷疊史……………	244
榎本子の殖民政策……………	244
經國策……………	249
油地獄……………	249
誰れか現代に革命の機なしと謂ふ乎……………	250
僻論派の史家……………	257
平山行藏氏が幕府に上る書……………	261
漢城之殘夢……………	263
大坂文藝……………	264
印度佛陀伽耶靈塔圖記……………	264
摸古美術木版繪三幅……………	264
新佛敎論……………	264
心の露……………	266
三經宗體……………	267
災害救濟論……………	267
又別天樓に與ふ……………	267
井筒女之助……………	268

はゞかりながら再版	故江幡梧樓氏著	269
中等國語漢文講義錄第一號	金港堂發兌	269
教育	吉川半七發行	269
宇宙之光	大内青巒氏著 哲學書院發行	270
大聖釋迦牟尼佛靈蹟眞圖	東京造畫館發行	270
史記列傳講義	稻垣衣白講義 興文社出版	270
哲學雜誌	哲學雜誌社發行	271
教育哲學	尾原亮太郎氏著 哲學書院發行	271
經世論策	越村茂氏著	271
あいぬ風俗略志	村尾元長氏著 北海道同盟著譯館	272
國家社會制	光吉元次郎氏譯 哲學書院發兌	272
經子講義	根本通明氏講述 根本義塾出版部發行	273
明治政史第壹冊	指原安三輯 富山房發兌	273
坐右記	十二	274
坐右記	十三	276
坐右記	十四	279
祭天古俗說辯義	宮地巖夫氏著 國光社發兌	283
佛教策	澁谷文英著 新潟南華書院發兌	283
關東人		283
挨拶		284
青年と教育	民友社發行	285
繪畫		285
僧侶と利慾		285

朝鮮の經營	287
受動的外交	289
伊藤侯は出使の任に適應せず	290
日露協定條約恃むべき乎	292
『臺灣日報』	
移風易俗の期(下)	294
總督府條例改正の議	296
第三疑獄又起る	297
臺灣の地方行政(一)	299
臺灣の地方行政(二)	300
臺灣の地方行政(三)	302
臺灣の地方行政(四)	304
臺灣鐵道を如何にすべき	305
臺灣鐵道を官設にすべし(上)	307
高野問題の一段落	308
政治の變革と風俗の移易	310
武夫信水君に答ふ	311
『萬朝報』	
進歩黨と提携するは伊藤内閣の利益なり	312
清國警察顧問の聘用	313
臺灣の鐵道に就て	316

人氣維持の手段、非律賓問題……………	317
布哇問題の善後策……………	319
言志四録（七月十日紹介東京圖書出版會社版）……………	321
再たび軍政釐革に就て……………	321
清國政治と皇帝の安否（上）……………	323
清國政治と皇帝の安否（下）……………	324
張之洞の地位……………	326
憲政黨に失望す……………	327
小田原征討史を讀む……………	328
政黨の最盛期……………	330
國防政策……………	331
明治人物評論……………	331
清國最近の形勢……………	332
支那の現勢と我が外務の方鍼……………	333
東亞同文會の清國派遣員……………	335
清國西徼の侵佔……………	337
英露協商と清國保全……………	338
海牙に於る平和會議……………	340
非律賓獨立に就て米國派基督教徒に望む……………	341
沈醉時期……………	343
沈醉時期の提醒者……………	345
臺灣當局の地位安全策……………	346

韓國に對する手段……………	348
支那の主陸軍策……………	350
大隈伯を支那に遊ばしむべし（上）……………	351
大隈伯を支那に遊ばしむべし（下）……………	353
戰利艦還付の議……………	354
清國の公武一致時期 竝に此際に於る我邦の用意……………	356
劉慶二氏の使命 上海新聞の訛言……………	358
東方問題の研究に就て 二、三協會合併の得策……………	359
青年の僥倖心……………	361
黨籍を廢すべし……………	363
劉坤一の晉京に就て（上）……………	364
劉坤一の晉京に就て（下）……………	365
馬山浦問題……………	367
宗教法問題局外觀……………	369
宗教法問題局外觀（再び）……………	371
清國事變の真相……………	372
社會陋俗の犠牲（婦人の不幸）……………	374
人心腐敗の新事實……………	376
中橋氏の大坂遷都論を評す（上）……………	377
中橋氏の大坂遷都論を評す（下）……………	379
『大阪朝日新聞』 大任を受くるの覺悟……………	381



銷夏錄	383
〔太陽〕	
北京城の沿革	384
〔改正條約實施内地雜居準備會雜誌〕	
臺灣新條約實施に就て	391
〔東洋戰爭實記 3〕	
支那と西洋諸國との關係	393
〔日本之文華〕	
英文學史	396
〔日本〕	
讀書偶筆(承前)	398
〔秋田魁新報〕	
内藤湖南氏の支那談(上)	401
内藤湖南氏の支那談(中)	402
内藤湖南氏の支那談(下)	403
支那改革に就て(一)〔講話〕	405
支那改革に就て(二)	406
支那改革に就て(三)	407
支那改革に就て(四)	409
支那改革に就て(五)	410
支那改革に就て(六)	411
内藤湖南氏滿洲實業談(一)	413

内藤湖南氏滿洲實業談(二)	413
内藤湖南氏滿洲實業談(三)	414

### 第Ⅲ部 目次

#### 『大阪朝日新聞』

支那問題の第一義(上)……………	419
支那問題の第一義(下)……………	421
死んだ楊守敬氏〔談〕……………	425
近時支那人の謬想(一)……………	426
近時支那人の謬想(二)……………	428
近時支那人の謬想(三)……………	429
近時支那人の謬想(四)……………	430
近時支那人の謬想(五)……………	432
近時支那人の謬想(六)……………	433
死は功罪共に帳消〔談〕……………	435
支那の近狀(一)……………	436
支那の近狀(二)……………	438
支那の近狀(三)……………	439
支那の近狀(四)……………	441
經濟的日支結合〔談〕……………	443
北京の天文機〔談〕……………	445
戦後の支那問題……………	445

支那鐵道の國際管理(一)……………	449
支那鐵道の國際管理(二)……………	451
支那鐵道の國際管理(三)……………	452
痛快なる除外例 山東問題解決は〔談〕……………	454
錢内閣の瓦壞に就て〔談〕……………	455
淺薄なる孫氏の意見〔談〕……………	456
俗論に誤らるゝ支那〔談〕……………	457
朝鮮統治の方針(上)……………	457
朝鮮統治の方針(中)……………	459
朝鮮統治の方針(下)……………	461
日英同盟と支那〔談〕……………	463
荷が勝ち過ぎた爲か 李純自殺の眞因〔談〕……………	465
社會老衰の傾向〔談〕……………	466
新舊日本の限界線として意義ある應仁時代(上)〔述〕……………	466
新舊日本の限界線として意義ある應仁時代(下)……………	468
最近の支那 奉直をして戦はしめよ……………	470
支那時局の一段落……………	473
支那の頽廢的現象(上)……………	475
支那の頽廢的現象(下)……………	477
學問の向上とコレージュ・ド・フランスの特徴(一)……………	478
學問の向上とコレージュ・ド・フランスの特徴(二)……………	480
學問の向上とコレージュ・ド・フランスの特徴(三)……………	481

學問の向上とコレージュ・ド・フランスの特徴(四)……………	483
康有爲氏 支那の學風に變化を與えた	
學者として有名〔談〕……………	484
伊藤蘭嶋先生 百五十年忌に際して〔談〕……………	485
純情・英斷の人 書畫一つ買ふにもこの心意氣	
鐵齋翁尙生きる? 本田蔭軒博士の作畫……………	488
『大阪毎日新聞』	
袁總統歿後の支那 當分亂脈は免れず〔談〕……………	488
支那の參戰は不可〔談〕……………	489
大變動は起るまい 支那通弊の利己的政爭〔談〕……………	490
支那の覺醒とは何ぞ(上)〔述〕……………	491
支那の覺醒とは何ぞ(下)〔述〕……………	493
我石器時代は新しい〔談〕……………	494
支那を巡歴して〔談〕……………	495
總統辭職は例の狂言〔談〕……………	497
横穴より發見の繪畫と文字〔談〕……………	498
考古學上の大問題〔談〕……………	499
支那一流の狂言 徐世昌及び段祺瑞の態度〔談〕……………	500
滿洲を巡歴して〔談〕……………	501
支那に對する方針 南方緩和劑〔談〕……………	502
支那に對する智識 南方一派に利用せられざれ……………	503
聖徳太子の外交……………	505

支那をして頼らしむべし〔談〕……………	506
日支關係の將來〔談〕……………	507
拒絕は不得策〔談〕……………	508
支那は復活し得べきか〔談〕……………	509
總統と總理 共に時局收拾の手腕なし〔談〕……………	511
支那の諸問題〔談〕……………	512
暗殺は鮮人の國民性か〔談〕……………	513
支那今後の政局〔談〕……………	514
支那を支配する者〔談〕……………	515
聯省主義と省人省治 現代支那を支配する思想〔談〕……………	517
誤まれる京都の都市計畫〔談〕……………	518
國語調査會に對する註文(二) 略字の使用と活字の改良	
大した價値は認めぬが	
此際國論を統一して誤解を釋くには絶好の機會〔談〕……………	520
共同管理と支那の内紛〔談〕……………	524
支那の「正史二十四」に更に一つを加へた柯氏の新元史……………	525
原氏は流石に統御力では當代隨一〔談〕……………	527
梁啓超氏の疆域論……………	528
灤州 <small>うれんしゅう</small> の一戰で萬事解決か〔談〕……………	531
遷都は斷じて不可〔談〕……………	532
曹大總統を承認するが得策〔談〕……………	533
出兵に對する批評 至當の處置〔談〕……………	534

國家の大本に關する有難き思召	535
昨日賜つた勅語を拜して	536
一九三一年の大京都市へ 名物の廢滅を防げ	538
國家創立當時から事實上既に皇帝	541
【太陽】	
韋庵會（故岡本監輔翁遺德表彰會）	542
戰後に於ける日本の地位	545
支那の統一と安定	552
支那の經濟力	556
瞥見せる支那	561
支那時局真相の難解	565
支那の亡兆	569
山東問題と排日論の根柢	577
支那の國際管理	580
【中外日報】	
最近日支佛敎の傾向（上）	581
最近日支佛敎の傾向（下）	582
日本人の心理も解せず馬鹿驢ぎをするな	583
神社問題に反對の内藤湖南博士	584
亞細亞民族聯盟（評）	
神社問題その他（上）	
特に青年眞宗門徒の反省を促す	

神社問題その他（下）	585
特に青年眞宗門徒の反省を促す	
【日本及日本人】	
滿洲發達の三大時期	592
乾隆帝の肖像（卷首寫眞版説明）	592
【秋田魁新報】	
内藤湖南氏の間島地形談	593
内藤湖南博士談——奉天の古文書——	599
【現代思潮 二十一 家講話】	
日韓古史研究（述）	599
【實業之日本】	
今上御即位五十年祝典の記念事業答案	599
【滿洲日日新聞】	
内藤博士と語る（一）	600
内藤博士と語る（二）	601
内藤博士と語る（三）	604
【美乃世界】	
古書畫の變遷に就て	603
進歩乎。退歩乎	606
【東洋學藝雜誌】	
京都帝國大學卒業式に於ける臺覽品説明	606
郎世寧繪畫 三點——林泉圖 猿猴圖 狩獵圖——	

『雄辯』	
古の滿洲と今の滿洲……………	606
『藝文』	
朝鮮平安南道。龍岡郡新出土漢碑釋文……………	615
『佛教大辭彙』	
序……………	616
『京都帝國大學學友會誌』	
學生に對する希望……………	616
文展日本畫の批評〔講演大意〕……………	618
『慕夏堂集』	
慕夏堂史論……………	635
『京都教育』	
史記の事ども……………	635
歴史の起源に就いて……………	638
『九州日日新聞』	
文化と古墳——漢鏡・刀劍・玉類——〔談〕……………	642
文化と古墳——隼人人種・九州西海岸——……………	643
文化と古墳——配色・文様・カントラ——……………	644
『青年之實業』	
支那の帝政問題に就て……………	645
『美術之日本』	
選定せられたる國寶に就て……………	648

『世の中』	
支那に於ける風教問題 儒教衰ふ……………	649
『朝鮮彙報』	
支那視察談……………	651
『實業新聞』	
都城の規模 (一)〔講演〕……………	666
都城の規模 (二)……………	667
都城の規模 (三)……………	669
都城の規模 (四)……………	671
都城の規模 (五)……………	672
都城の規模 (六)……………	674
都城の規模 (七)……………	676
『歴史と地理』	
聖德太子の内治外交……………	677
『やまと新聞』	
對支第一の要務 (上)〔談〕……………	681
對支第一の要務 (下)……………	682
『大阪新報』	
段内閣と借款問題〔談〕……………	683
國亡びて文化在り (一)〔談〕……………	684
國亡びて文化在り (二)……………	686
國亡びて文化在り (三)……………	687

國亡びて文化在り (四)	688
國亡びて文化在り (五)	689
國亡びて文化在り (六)	691
『外交時報』	
政策以外の真關係	692
支那の真相暴露	695
〔内藤湖南文庫所藏原稿〕	
朝鮮の開國〔講演〕	698
『關西日報』	
凡ては一場の夢幻劇 (一)〔談〕	719
凡ては一場の夢幻劇 (二)	721
凡ては一場の夢幻劇 (三)	722
『京都日出新聞』	
最近の支那 (一)〔述〕	724
最近の支那 (二)	725
最近の支那 (三)	726
最近の支那 (四)	727
最近の支那 (五)	728
最近の支那 (六)	730
最近の支那 (七)	731
最近の支那 (八)	732
最近の支那 (九)	734

最近の支那 (一〇)	736
最近の支那 (一一)	737
『大阪時事新報』	
我國と支那借款	739
『井華』	
支那の社會組織〔講演〕	740
『大正日日新聞』	
支那統一前の途	758
『繪畫清談』	
南畫の話 日本南畫書院展覽會出品を審査して〔談〕	760
『貨幣』	
支那の古錢及金石に就て〔述〕	762
『表現』	
梁啓超氏の非國際管理論を評す	770
『サンデー毎日』	
賣られる四庫全書の事	779
支那には稀な仇討の話〔談〕	780
掘り出した二大珍書〔談〕	782
『龍谷大學論叢』	
富永仲基の佛教研究法	785
『鐵齋翁遺墨集』	
鐵齋先生追憶談	793

『大御言葉を拜して』	
大御言葉を拜して……………	800
『高野山時報』	
文鏡祕府論箋に就て(一)〔講演〕……………	805
文鏡祕府論箋に就て(二)……………	808
文鏡祕府論箋に就て(三)……………	810
『寧樂』	
奈良朝文化と書籍……………	813
『書道春秋』	
恭仁山莊書道縱横談……………	817
『木堂雜誌』	
追憶の一齣 支那内外に響き涉つた木堂先生の名聲〔談〕……………	820
『東洋美術』	
家藏『鳳首琴』解説……………	821

